

データ構造

目次

1. データ構造とは？
2. 配列
3. リスト
4. スタックとキュー
5. 木構造
6. まとめ
7. 補足

1. データ構造とは？

- データの集まりをコンピュータ上で効率よく扱うための格納形式
- プログラミング言語には多くのデータ構造が標準で実装されている

2. 配列

データを順番に格納する方式

アドレス		配列
101	5	A[0]
102	8	A[1]
103	3	A[2]
104	4	A[3]
105	1	A[4]
106	6	A[5]

- データにアクセスするにはインデックスを指定する
- アクセス時間はインデックスを指定するだけなので $\mathcal{O}(1)$
- データ追加時間は配列の要素をズラすので $\mathcal{O}(n)$
- メモリ上でデータが順番に並んでいる

色々な配列

1. 多次元改装

配列のインデックスが2以上になったもの。

配列の中に配列が入る構造。（例：a[1][2]のように書く）

2. 静的配列

決まった要素数しか格納できない配列

3. 動的配列

要素数によって自動的にサイズが変わる配列

3. リスト

データと次のデータを格納しているアドレスを格納する方式



- データにアクセスするにはアドレスを指定する
- アクセス時間はアドレスを順番に辿るので $\mathcal{O}(n)$
- データ追加時間はアドレスを変更するだけなので $\mathcal{O}(1)$
- メモリ上でデータが順番に並んでいるとは限らない

色々なリスト

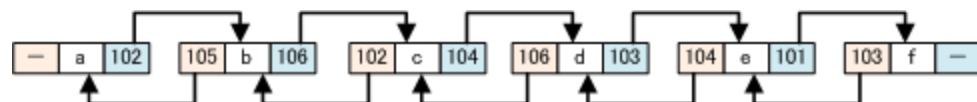
1. 単方向リスト

後ろのデータのアドレスを持つリスト



2. 双方向リスト

前後のデータのアドレスを持つリスト



3. 循環リスト

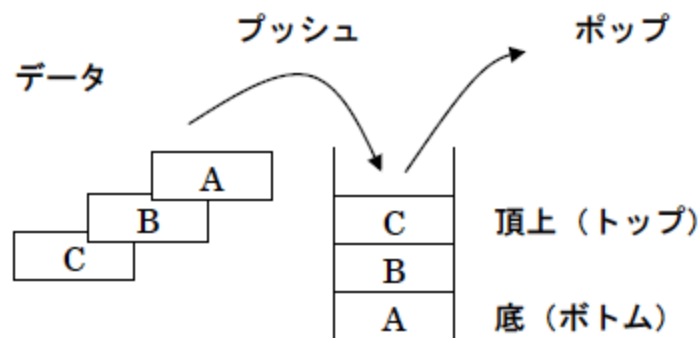
最後のデータが最初のデータのアドレスを持つリスト



cf. データ格納用バッファの管理によく使われるらしい...

4. スタックとキュー

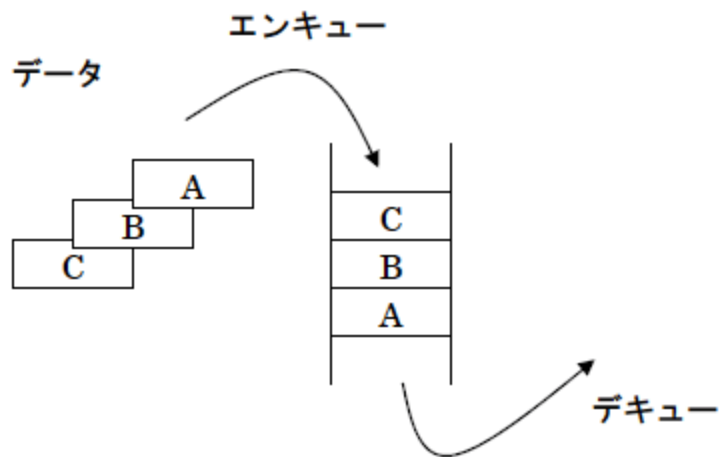
スタック：最後に格納したデータを最初に取り出せる方式



- データを追加する操作をプッシュという。処理時間は $O(1)$
- データを取り出す操作をポップという。処理時間は $O(1)$
- 使用例：再帰関数の再帰呼び出し、エディタのundo処理

4. スタックとキュー

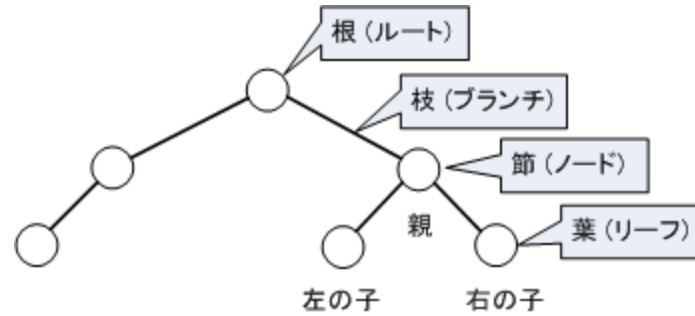
キュー：最初に格納したデータを最初に取り出せる方式



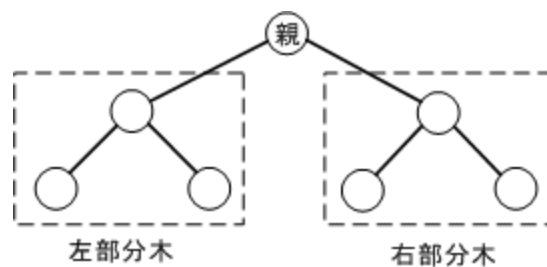
- データを追加する操作をという。処理時間は $\mathcal{O}(1)$
- データを取り出す操作をポップという。処理時間は $\mathcal{O}(1)$
- 使用例：印刷機ジョブスケーリング、非同期データ転送

5. 木構造

データを階層構造で格納する方式



- 一番根本の要素を根（ルート）とよぶ
- 途中の要素を節（ノード）とよぶ
- 節と節をつなげる部分を枝（ブランチ）とよぶ
- 枝の一番先端にある要素を葉（リーフ）とよぶ



- 木構造の内的一部分を部分木とよぶ（左部分木、右部分木）
- 使用例：ディレクトリの階層構造

色々な木構造

- 2分木

枝に結ばれている要素が 2 つ以下で、右と左の要素を区別する木

- 完全2分木

根から深さの小さい順に、かつ同じ深さでは左から順に節を詰めた2分木(木の深さがすべて等しい)

- 2分探索木

2分探索木 2分探索木は各節点が持つデータについて、
「左部分木の値 < 親 < 右部分木の値」となっている2分木

色々な木構造

- 平衡木

バランス木(平衡木) どの葉に至るまでも枝の数（木の深さ）がほぼ等しい木

- ヒープ木

各節点について、「親 \leq 子 (親 \geq 子)」となっている2分木

- AVL木

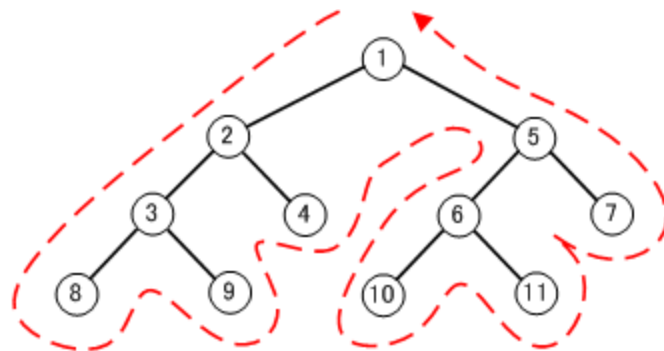
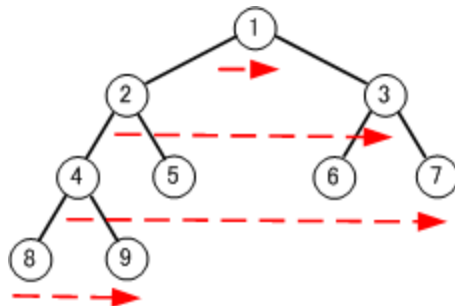
各節点について、左部分木と右部分木の高さの差が ± 1 までにおさまる2分探索木

色々な木構造

- B木
全ての葉の深さが同じである木
- 順序木
節の値に順序がある木
- 多分木
節から分岐する枝が2以上の木

木構造の探索

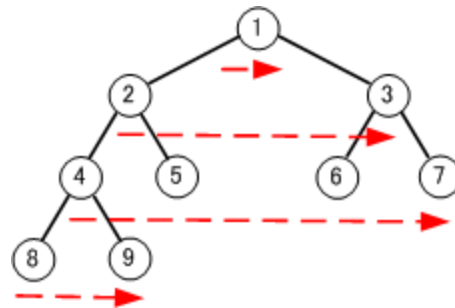
木構造の探索は配列やリストの探索のように単純ではない。
探索の方法には”幅優先探索”と”深さ優先探索”の2つがある。
(下記の図の上が”幅優先探索”、下が”深さ優先探索”)



前順 1 → 2 → 3 → 8 → 9 → 4 → 5 → 6 → 10 → 11 → 7

幅優先探索

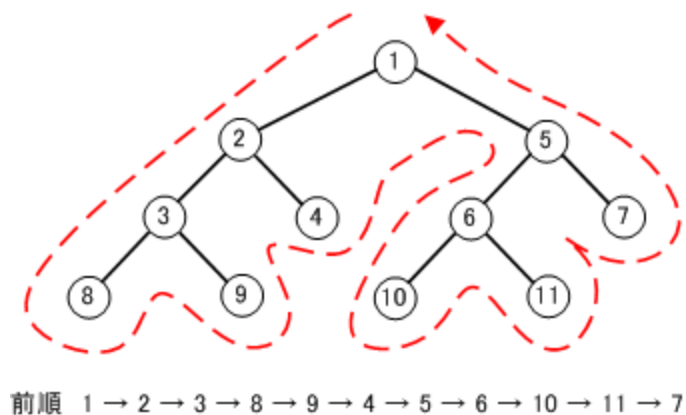
根から浅い節を先に探索し、同じ深さの節を探索し終われば、次に深い節を探索する。



- 根から最も近いデータを探索したいときに使う
- データが大量・探索範囲が広い場合に使う

深さ優先探索

根から順に深くなる節を探索し、一番深い所まで探索し終われば、また、上から順に深くなるように探索する。



- データを全通り列挙したいときに使う

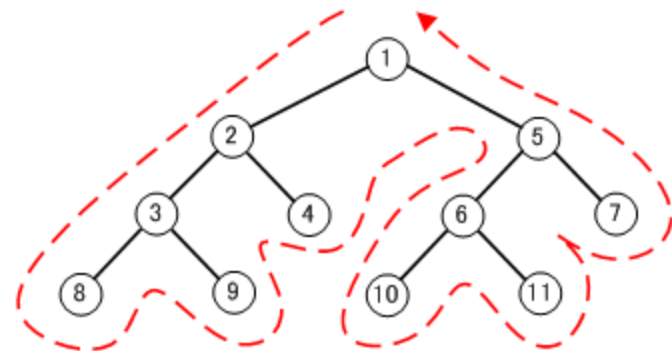
6. まとめ

- データ構造についてまとめた
- 配列、リスト、スタックとキュー、木構造について簡単に説明した

深さ優先探索の種類

- 前順

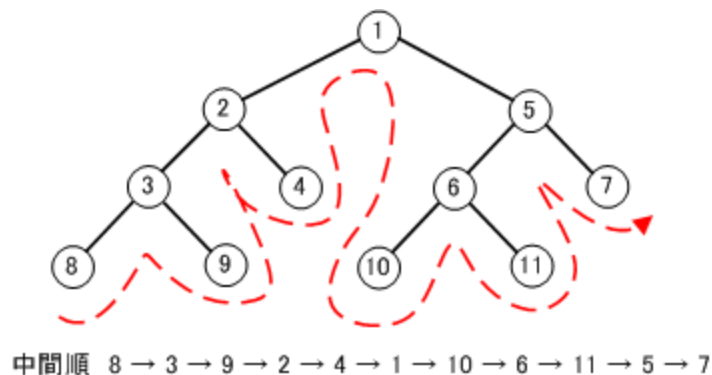
根→左部分木→右部分木の順で探索



前順 1 → 2 → 3 → 8 → 9 → 4 → 5 → 6 → 10 → 11 → 7

深さ優先探索の種類

- 中間順
左部分木→根→右部分木の順で探索



深さ優先探索の種類

- 後順
左部分木→右部分木→根の順で探索

